終わりに

新生計画実施要領作成委員会
諏訪　栄治郎

二千年におよぶ教会の歴史は実に「改革の歴史」であると言われています。言い換えるなら、それは止むことのない聖霊の呼びかけに常に答えようとした歩みとも言えるでしょう。時代の要請や状況の中でまた人々の生活の中で神の慈しみを目に見えるようにと教会は常に「新しい福音宣教」に生きようとしてきたのです。

上記の意味において、本書は旅する教会がこれまでの積み上げの中で確認してきた方向をふまえ、現代に生きる教会像を明確に指し示し、新生計画として福音宣教の具体的な方策を表したものです。もちろんこれは感性の段階を述べているとは言えないでしょうが、各地区（ブロック）や小教区において福音宣教する教会が常に聖霊に照らされ、「わたしの教会」という狭い意識から「キリストの教会」へと広がりを持ち、さらなる豊かな可能性を発見し、神の国への希望を共有していくことを願っています。いま福音宣教の新しい試みと広がりが至るところで展開されています。いくつか紹介いたしましょう。

① 教区間（京都・大阪）の協力態勢への試行、
② 教会管区内での国際協力への連携、
③ 小教区を超えた青少年の活動と取り組みの恒常化、
④ 新宣教拠点における信徒の奉仕と地区の司祭たちの協力態勢、
⑤ 司祭評議会における教会建築に関しての新たな方向性の確認、
⑥ 地区、ブロックにおける生涯養成コースの常設と信徒スタッフの派遣制度、
⑦ 信徒、修道者、司祭のチームによる信仰入門、聖書講座・結婚準備セミナー等の開設、
⑧ 集会祭儀のリーダー養成コースの常設、
⑨ 弱い立場に置かれた人々への支援活動等における市民団体との連携及びエキュメニカルな活動の増加、
⑩ ミッションスクールと社会活動センターとの協力関係の構築、
⑪ 小教区評議会における外国籍の方々の全面参加、
⑫ ブロックでの堅信の秘跡に向けての合同準備会、

……などなど色々な試みが教区、地区、小教区などで行われています。

これらの福音宣教は必要にせまられた動きとして始められ、単なる「運動」というものではなく、「生活に根付いた」福音宣教の歩みとして生まれ、今後の豊かな歩みの兆しとなっていると言えるでしょう。このような動きを、アジア特別シノドス（1998.4. 19～5.14）は『アジアの教会の信徒にあてたメッセージ』の中で大きな希望として述べています。「……アジアの多くの国では、キリスト者としての自らの責

任を十分に意識している多くの信徒の存在が、喜びをもたらしています。……最も抑圧されている人々と共に生きるために、ためらうおとなく彼らの権利を擁護するために共に闘っている人々のいることも喜ばしいことです。」

どうぞ皆さま、現在手掛けているところを、また関われるところから新しい福音宣教を始めてみてください。そこでの意見、希望、発見、評価、計画等を現場である地区宣教評議会で取り上げ、検討しさらなる一歩を踏み出していただけることを願い、主の教会が多くの人々の喜びの道具となりますことを期待しております。

皆様の上に主の豊かな祝福を心からお祈り申し上げます。

1998 年 8 月 15 日